

令和8年8月5日

福島大学創立80周年記念事業パンフレットの完成について — 3つの記念プロジェクトのご紹介 —

福島大学は、令和8年5月13日の第203回定例記者会見において、令和11年に迎える創立80周年に向けた記念事業について発表しました。

このたび、記念事業の内容を広く紹介するパンフレットが完成するとともに、創立80周年記念事業の柱となる3つの記念プロジェクトを公表いたします。また、記念事業に関する情報を発信する特設ホームページを設置しました。今後、パンフレットやホームページを活用し、学内外への情報発信を進めて参ります。

◎創立80周年記念事業パンフレットの完成

福島大学創立80周年記念事業の基本コンセプトや今後の取組を広く紹介するパンフレットを作成しました。パンフレットには、創立80周年記念事業の趣旨や3つの記念プロジェクトなどが掲載されています。

◎3つの記念プロジェクト

創立80周年を契機として、本学の教育・研究・地域貢献のさらなる発展を目指し、次の3つのプロジェクトを展開します。

(1)【防災対応型運動施設整備プロジェクト】

(概要) 老朽化した陸上競技場を改修し、インフィールドの多目的フィールド化と防災機能の強化により、安全な教育・交流環境を整備し、大学のブランド価値向上を図ります。

(2)【自然共生キャンパス環境整備プロジェクト】

(概要) 金谷川キャンパスの自然環境を保全・活用し、「自然共生サイト」の活動を推進。教育・研究・地域連携の力で生物多様性を守り、持続可能な社会の実現に貢献します。

(3)【知の継承と発信のための資料館構想プロジェクト】

(概要) 本学の学術資料や研究成果を保存・公開し、学生の学びを支える教育資源として活用するとともに、大学の理念や特色を発信する教育・研究・広報の拠点となる資料館を設置します。

※各プロジェクトの詳細は添付パンフレット、資料をご参照ください。

◎創立80周年記念特設ホームページの設置

創立80周年記念事業に関する情報を発信するため、特設ホームページの仮ページを設置しました。本ページでは、創立80周年記念事業の概要やパンフレットなどを掲載しています。今後、各プロジェクトの詳細やイベント情報、最新のお知らせなどを順次掲載していく予定です。

URL: <https://www.fukushima-u.ac.jp/80th.html>

(お問い合わせ先)

総務課 広報・渉外室 広報係

電話：024-548-5190

メール：kouho@adb.fukushima-u.ac.jp

陸上競技場が 生まれ変わる！

福島大学陸上競技場は、長年にわたり授業や課外活動、地域スポーツ活動の場として、多くの学生や地域の皆さまに利用されてきました。

また、本競技場で研鑽を 積んだ学生の中には、国内外の競技大会で活躍し、オリンピック出場や日本記録の樹立など、優れた成果を挙げた人材もいます。

この競技場は、学生の成長を支える教育環境であるとともに、地域との交流を育む大切な場として、その役割を果たしてきました。

一方で、施設は長年の使用によりトラックや競技設備の老朽化が進み、安全性や機能面での課題が顕在化しています。

トラック舗装の摩耗や設備の経年劣化は、利用者の安全確保や競技環境の維持に影響を及ぼすだけでなく、公認競技場としての機能維持にも課題を抱えています。

また、この陸上競技場はキャンパスにおける災害時の避難場所として位置付けられており、学生や教職員の安全を支える重要な役割を担っています。

さらに今後は、地域との連携を一層深め、地域住民の避難場所や防災活動の拠点としても活用できる施設を目指しています。

そのためには、防災備蓄庫や給水設備、照明設備など、防災機能を計画的に充実させることが重要です。

本プロジェクトで 取り組むこと

学生の挑戦を支え、地域とともに災害に備え、未来につながる学びと安心を育む。
そのような新たな価値を備えた運動施設の実現を目指しています。

★学生の学びと挑戦を支える教育環境の充実 ★地域に開かれた交流・スポーツ拠点の創出

★安全で質の高い競技環境の整備

★防災対応型施設への機能強化

学生の挑戦を支え、
地域の安全を守る「未来型フィールドへ」

防災対応型運動施設整備プロジェクト

希少植物、昆虫、鳥たちが息づく“生きた学びの森”を未来へ

自然共生キャンパス環境整備プロジェクト

福島大学金谷川キャンパスは、2025年12月、環境省が認定する「自然共生サイト」に認定されました。福島市では初、福島県内でも6件目となる認定であり、本学が長年にわたり取り組んできた自然環境の保全活動と、その価値が高く評価されたものです。

金谷川キャンパスは、1979年の移転以前から地域の里山として親しまれてきた場所です。現在も雑木林や草地、水辺など多様な環境が残され、植物約450種、チョウ類・トンボ類約90種、鳥類約100種が確認されるなど、豊かな生物多様性を育んでいます。さらに、環境省レッドリスト掲載種であるオオムラサキやキンランをはじめとする希少な動植物も生息・生育しており、地域に残された貴重な自然環境となっています。

この豊かな自然は、教育・研究のフィールドとして活用されるだけでなく、学生や教職員が自然と向き合い、生物多様性や環境保全を実践的に学ぶ「生きた学びの場」として重要な役割を担っています。

これまで本学では、学生・教職員が協働しながら、下草刈りや外来種の駆除、生態系モニタリング調査、自然環境を活用した教育・研究などの活動を継続してきました。こうした積み重ねが評価され、「自然共生サイト」への認定につながるとともに、国際的な生物多様性保全の枠組みであるOECMにも位置付けられています。

一方で、この豊かな自然環境は、そのまま維持されるものではありません。里山環境を保全し、生物多様性を守り続けるためには、継続的な管理や調査、教育・研究活動を支える環境整備が欠かせません。

福島大学では、この貴重な自然環境を未来へ受け継ぎ、教育・研究・地域との連携に生かしながら、人と自然が共生する持続可能なキャンパスづくりを進めていきます。

本プロジェクトで取り組むこと

- 里山環境の保全・維持管理
- 希少動植物の生息・生育環境の保全
- 生態系調査・モニタリングの充実
- 自然を活用した教育・研究活動の推進
- 学生・地域と連携した環境保全活動の展開



金谷川キャンパスの豊かな自然は、福島大学だけでなく地域社会にとってもかけがえのない財産です。この環境を未来へ継承し、次世代の学びと生物多様性保全につなげることを目指しています。

福島大学は、明治初期にさかのぼる古い歴史、地域の経済や教育を支えてきた伝統、震災以降の復興・地域再生でのめざましい貢献がありながら、それを紹介する博物館も資料館也没有。

福島大学は、1874年開校の福島師範学校講習所・1921年開校の福島高等商業学校に端を発し、福島経済専門学校・福島師範学校・福島青年師範学校として明治時代以降の福島の経済や教育を支えてきました。

戦後の教育改革の中で、福島大学は新制大学として発足し、地域社会とともに教育・研究・社会貢献を積み重ねてきました。

特に東日本大震災以降は、復興・地域再生に取り組む知的拠点として、多くの学生、教職員、地域の皆さまとともに新たな知と実践を育んできました。

その長い歩みの中で蓄積されたアーカイブズ（資料・記録）や研究成果は、福島大学だけでなく、地域の歴史や復興の歩みを伝える貴重な財産でもあります。

しかし現在、それらの多くは学内に分散して保管され、十分な保存・活用環境が整っているとは言えません。
また、福島大学の歴史・伝統や今を伝える展示也没有。

福島大学が地域とともに明治時代以降に育んできた知と記憶は、未来へ受け継ぐべき大切な共有財産です。

資料館は、過去を振り返るだけの場所ではなく、
新たな学びや対話を生み出し、
大学と地域をつなぐ交流の場としての役割も担います。

こうした知的資産を適切に保存し、教育・研究・地域連携に生かしながら次世代へ継承するため、資料を体系的に整理・公開し、必要に応じて収集していく拠点が求められています。

本プロジェクトで取り組むこと

- ・ 福島大学の歴史・伝統や今を伝える展示機能の整備
- ・ 自然史や歴史・民俗など大学の地域研究上貴重な資料の収集、保存、デジタル化
- ・ 福島大学が保持している大学アーカイブズや歴史的研究成果の保存体制の確立
- ・ 学生や地域と協働・交流する展示や教育プログラムの展開
- ・ 地域の自然・文化や震災復興の歩みを広く発信する企画の実施

福島大学にも
資料館が欲しい。

■福島大学基金について

福島大学基金は、本学の教育・研究・地域貢献活動を幅広く支援し、未来を担う人材の育成と地域社会の発展に寄与することを目的として設立された基金です。皆さまから寄せいただいたご寄附は、次のような事業に活用させていただきます。

教育・学生支援事業

グローバル社会で活躍できる人材育成をめざし、教育環境の整備に活用します。

研究推進事業

学術振興の進展のため、福島大学全体の研究推進に関する事業に活用します。

大学の発展・充実に資する事業

本学の教育・研究・学生サービスの充実のため、学内環境の整備に活用します。福島大学では創立80周年を記念し、3つのプロジェクトを立ち上げました。福島大学と地域社会のさらなる発展のため、皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

お申し込みについて

お申し込み方法

福島大学ホームページ内の「福島大学基金」お申込みフォームからお手続きいただけます。

ご寄附の入金方法は、クレジットカード、銀行振込、郵便振替などをご利用いただけます。詳細は福島大学ホームページをご確認ください。

※ 現金でのご寄附、インターネットを利用しないお手続きをご希望の方は、福島大学 総務課 広報・渉外室 校友会・基金支援係へご連絡ください。

福島大学基金ホームページ：<https://www.fukushima-u.ac.jp/donation/>



税法上の優遇

本学が発行する「寄附金領収書」を添えて、確定申告によりお手続きください。

個人からのご寄附 (所得税法第78条第2項第2号)

■ 所得税
年間の寄附金額（総所得金額等の40%相当額が上限）のうち、2,000円を超える部分について、所得税の寄附金控除を受けることができます。

■ 住民税
本学への寄附は、お住まいの都道府県・市区町村の条例により、個人住民税（県民税・市町村民税）の寄附金税額控除の対象となる場合があります。

法人からのご寄附 (法人税法第37条第3項第2号)

本学への寄附金は、寄附金の全額を損金に算入することができます。

謝意の表明

ご寄附いただいた皆様へ感謝の気持ちを込めて、顕彰および返礼品をご用意しております。

詳しい内容はこちらからご確認ください。→



■お問い合わせ先

国立大学法人 福島大学 基金事務局（総務課広報・渉外室内）
〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地
TEL: 024-503-4991 FAX: 024-548-3180
E-mail: kikin@adb.fukushima-u.ac.jp
80周年記念事業ホームページ: <https://www.fukushima-u.ac.jp/80th/>



～未来へつなぐ知と共創～ 福島大学創立80周年 記念事業



■学長挨拶

福島大学は、令和11年に創立80周年という大きな節目を迎えます。昭和24年の創立以来、本学は地域に根ざした国立大学として、教育・研究を通じた人材育成と知の創造に取り組み、地域とともに歩んでまいりました。この歩みは、学生・卒業生をはじめ、地域の皆様、企業、自治体など、多くの方々のご支援とご協力によって支えられてきたものです。

本学は現在、「福島大学グランドデザイン2040」のもと、「新しい社会のあり方を提案できる大学」「個人と社会の Well-being の実現を目指す大学」をミッションに掲げ、「正解のない問い」に挑戦できるイノベーション人材の育成と、地域と世界が直面する複雑な課題の解決に向けた研究を推進しています。令和9年度からは4学部体制へ移行し、文理融合・分野横断型の「共創知教育」を通して、専門性に加え、地域との協働により新たな価値を創造できる人材の育成を進めてまいります。

創立80周年記念事業は、このような未来への挑戦を支える取組です。本学の歴史と知を次世代へ継承するとともに、教育・研究環境の充実、安全・安心で持続可能なキャンパスづくり、さらに国内外へ開かれた知の共創拠点としての基盤整備を進め、次の100年に向けた確かな礎を築いてまいります。

創立80周年が、福島大学と地域の未来をともに切り拓く新たな出発点となることを願っています。福島大学はこれからも、人と知が響き合い、新たな価値を創造する大学として、挑戦を続けてまいります。

福島大学は「知の拠点」として
地域とともに歩みを進めて
まいります。



福島大学学長 佐野孝治

History 福島大学のあゆみ

1874	明治 7 年	福島師範学校講習所開校
1921	大正10 年	福島高等商業学校設置
1949	昭和24 年	福島大学設置
1979	昭和54 年	教育学部と経済学部が金谷川キャンパスに移転統合
1987	昭和62 年	行政社会学部を設置
2004	平成16 年	国立大学法人化に伴い、全学再編(学群・学類・学系制) 共生システム理工学類を設置
2011	平成23 年	東日本大震災・原発事故発生→うつくしまふくしま未来支援センターを設置 (地域未来デザインセンターに改組)
2013	平成25 年	環境放射能研究所を設置
2019	平成31 年	農学群食農学類を設置
2021	令和 3 年	食農学類附属発酵醸造研究所を設置
2023	令和 5 年	大学院再編 [地域デザイン科学研究科、教職実践研究科 (教職大学院)、共生システム理工学研究科]
2024	令和 6 年	共生システム理工学類附属水素エネルギー総合研究所を設置
2027	令和 9 年	全学再編 (学部・課程・学科制) 教育学部・政経学部・理工学部・食農学部に変更
2029	令和11 年	福島大学は創立80周年を迎えます



事業の目的

福島大学は2029(令和 11)年に創立80周年を迎えます。

本記念事業では、「福島大学グランドデザイン 2040」に基づき、教育・研究・社会貢献を通じて地域とともに歩む大学の姿を発信します。

学生・教職員・卒業生・地域の皆さまや企業など、多様なつながりを活かしながら、大学の魅力や役割への理解と共感を広げ、次の90周年、100周年に向けた支持基盤の形成と、大学の持続的な発展につなげることを目的とします。

復興から共創へ

教育

- 問題解決型教育の推進
- 異分野融合を促進する教育組織の再編
- 教育の質保証徹底と学修者中心のカリキュラム構築
- 文理融合・分野横断型の共創知教育の推進

研究

- 異分野間の共同研究を推進
- 人文社会系との融合を期待した理・工・農学系の研究強化
- 環境放射能研究所、発酵醸造研究所、水素エネルギー総合研究所等の研究を進化・発展

地域社会との連携

- 地方国立大学の社会貢献の在り方を再構築・強化
- 研究者が問題解決に関わる地域貢献の実践研究を設計
- 将来の地域の姿や課題を明確化し、逆算して課題を提起

教員養成・附属学校園改革

- 震災・原発事故復興と少子化に対応した教員養成の福島モデルを構築
- 少子化を考慮した附属学校園の抜本的改革を実施

地域に即したグローバル教育を全学で推進

- Fukushima Ambassadors Program を発展させ、地域に即したグローバル教育を全学で推進
- 留学生増加、語学力向上、海外インターンシップ活性化
- 海外との共同研究数の増加

記念事業 5つの取り組み



80周年記念プロジェクト

防災対応型運動施設整備プロジェクト

目標:5億円



授業や地域活動で活用される陸上競技場の老朽化した設備とインフィールドを改修し、防災機能の強化と多目的フィールドへの再整備を行うことで、安全かつ安定的な教育・交流環境を整えます。教育・防災・地域貢献の三位一体による整備を通じて、大学の信頼性とブランド価値の向上を図る取り組みです。



教育と安全を支える地域のスポーツ拠点。

自然共生キャンパス環境整備プロジェクト

目標:2億円



金谷川キャンパスの豊かな自然環境を保全・活用しながら、環境大臣、農林水産大臣及び国土交通大臣から認定された「自然共生サイト」の活動を後押しする取り組みです。大学の教育・研究・地域連携の力を結集し、生物多様性の保全と持続可能な社会の実現に貢献します。



多様な命が息づく自然豊かなキャンパスで育む学び。

知の継承と発信のための資料館構想プロジェクト

目標:3億円



本学に蓄積された学術資料や研究成果を保存・公開し、学生の主体的な学びを支える教育資源として活用するとともに、大学の理念や特色を広く社会に発信する場として資料館施設を設置し、教育・研究・広報の拠点とすることを目的とします。



知と記憶を未来へとつなぐ資料館。